

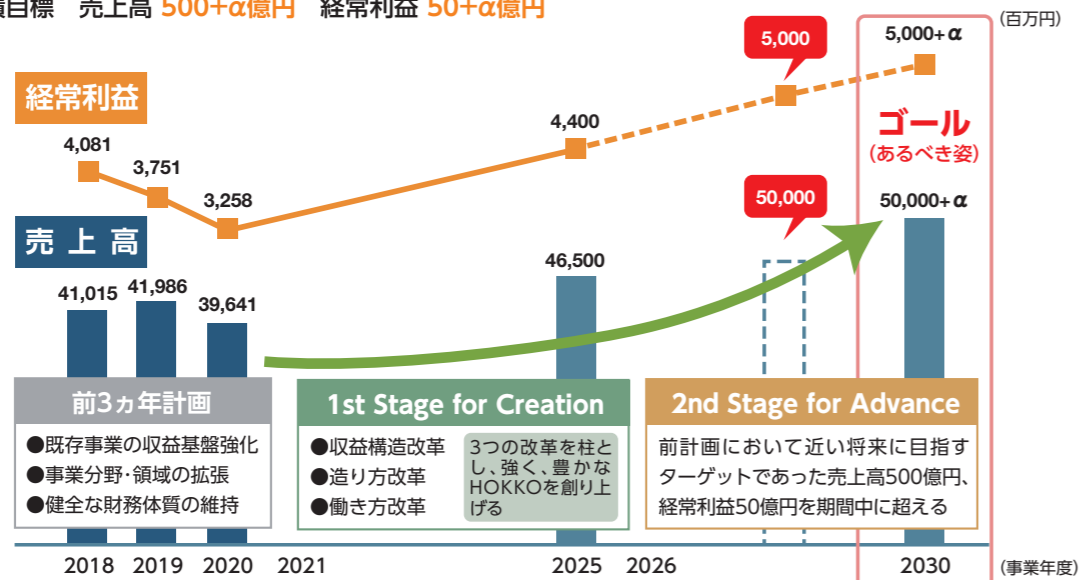
経営計画

当社グループは、2030年度をゴールとする長期経営計画「HOKKO Value Up Plan 2030」において、将来あるべき姿に向かって持続可能な成長を成し遂げるとともに、社会課題の解決に積極的に取り組みます。

長期経営計画 HOKKO Value Up Plan 2030 未来は創造できる ～強く、豊かなHOKKOへ～

持続的成長を成し遂げるため必要な投資を進めます。その効果実現には10年程度を要することから、計画のゴールを2030年度としました。最初の5年間で1st Stageとし、業務改革の推進により基盤強化を図り、次の5年間の2nd Stageで、あるべき姿に到達することを目指します。また、当社グループの持続的な成長とサステナブルな社会の実現に寄与するため、SDGsの達成に取り組みます。

■長期業績目標 売上高 500+α億円 経常利益 50+α億円



中期経営計画 —1st Stage for Creation— (2021～2025事業年度)

1.基本方針

『収益構造改革』『造り方改革』『働き方改革』の3つの改革を推進。企業価値向上と社会課題の解決に向け、ムリ、ムダ、ムラを排除し、筋肉質で骨太な企業体質を造り上げ、強く、豊かなHOKKOを実現します。

2.経営目標

2nd Stage期間中に達成を目指す売上高500億円、経常利益50億円を見据え、以下の業績目標、KPIを設定し、目標達成に取り組みます。

業績目標		2020年度実績	2025年度計画
売上高(百万円)		39,641	46,500
経常利益(百万円)		3,258	4,400
KPI		2020年度実績	2025年度計画
収益構造改革	収益性	売上高経常利益率	8.2%
	財務健全性	ROE	8.5%
造り方改革	農業事業	自己資本比率	63.0%
	ファインケミカル事業	製造原価(2020年度実績生産物量基準)	60%以上を維持
働き方改革	農業事業	製造能力(2020年度実績出来高基準)	2021～2025年度累計800百万円削減*
	売上高販管費比率(委託研究費を除く)	2018～2020年度の平均値18.4%	2025年度に20%向上
			17%以下

*各年度の単位物量あたりの原価に2020年度の物量をかけて算出した製造原価と、2020年度の製造原価実績との差額の総計

当社グループの主要3事業

当社は、野村鋳業株式会社の製薬部門が独立して、1950年2月27日に創立しました。「グリニャール反応」をコア技術に、農業・ファインケミカルの2つの事業を柱として発展。2019年、当社グループは繊維資材事業に進出し、進化を続けています。

農薬事業

野村鋳業(株)において培われた技術を受け継ぎ、当社製品の第1号である「撒粉ボルドー」(銅殺菌剤)を製造、販売したのが当社の始まりです。また、有機合成反応技術「グリニャール反応」を駆使して、稲のいもち病に高い効果を発揮する農薬(殺菌剤)を開発し、製造を開始しました。

優れた技術と開発力

1965年には、奈良県の春日大社の土壌から発見された微生物が生産する抗生物質「カスガイシン」を農業製品として開発しました。現在では、世界40カ国で農業登録を取得しています。2014年には、水稻に対する高い安全性を示し、稲の主要

雑草ノビエに対する高い効果と優れた残効性を示す「イブフェンカルバゾン」を開発しました。国内で好評を博し、海外では2014年に韓国で登録を取得。その後、アジア諸国での登録に向け試験を実施しています。

また、優れた製剤技術には定評があり、1990年代に、溶出制御技術により、薬剤を田植え前の育苗箱に散布するだけで、田植え後の生育期に発生する病害虫を防除できる「Dr.オリゼンシリーズ」を(株)MMAGと共同開発しました。



ファインケミカル事業

当社は、わが国で最初に「グリニャール反応」による有機金属化合物の工業生産を成功させました。この得意とする反応技術を活かして、農業以外の分野でも、社会・産業に貢献できる化学製品を提供できないだろうか、という想いから始まったのが、現在の主力事業の一つ「ファインケミカル事業」です。

幅広い分野へ製品を提供

「グリニャール反応」技術を活かし、事業の2本目の柱に発展させるため、ファインケミカル事業が独立した一部門として歩み出したのは、塩化ビニール安定剤原料の製造を始めた1969年からです。

1970年代後半からは合成香料原料、医薬原料・中間体、1980年代には主力製品であるホスフィン系有機触媒トリフェニルホスフィン(TPP)の製造を開始。その後、機能性高分子原料などを手がけ、2000年代には自動車排ガス浄化触媒用原料を発売しました。現在は、樹脂、電子材料、医農薬分野などに製品を提供しています。

2002年には、ファインケミカル製品の生産拠点として中国江蘇省に張家港北興化工有限公司(子会社)を設立しました。



繊維資材事業

2019年にグループ会社となった村田長株式会社は、1885年創業の老舗企業です。同社は呉服、絹製品を扱う繊維問屋として発足しましたが、近年は繊維資材の専門商社へとビジネスモデルを転換、商社でありながら顧客ニーズに即した商品企画、原料からの素材開発、独自の付帯加工を行い、多機能で高機能な商品を開発・提供できるのが大きな特徴です。その商品は自動車・家具などの産業用繊維資材、靴・靴・衣料・介護・防災関連などの消費者用繊維資材で幅広く活用されています。これからも、「リサイクル繊維」を活用した循環型の商品開発を強化し、地球環境と天然資源を守り、持続可能で快適な社会づくりに貢献していきます。

グループシナジー効果の発揮

当社と村田長(株)は、両社のスキル・ノウハウ・ネットワークを融合することでシナジー効果を発揮し、グループとして事業分野・領域の拡大と付加価値の創造を図っています。

また村田長(株)の上海事務所は、中国製造拠点の開拓や品質管理面で重要な役割を果たすとともに、北興化学工業グループにおける海外ビジネス拠点の一つとしても連携を強化していきます。



中期経営計画の進捗状況

当社グループは、さらなる企業価値向上、また、2nd StageにおけるValue Upを確実にするため、1st Stageである中期経営計画の達成に経営資源を集中し、目標達成を目指します。

1st Stage for Creation 基本方針

収益構造改革

【成長・財務基盤強化】
「成長・財務基盤強化」を実現することで、安定的な売上高と収益額を確保する。

造り方改革

【高効率化・省力化・環境対策】
「高効率化・省力化・環境対策」を強化し、高品質・高付加価値な製品を市場に提供する。

働き方改革

【業務効率化・人材育成】
「業務効率化・人材育成」に重視して取り組み、全ての従業員がその個性と能力を十分に発揮する。

2021年度の主な取り組み実績

- 《農業事業》
- 高拡散性粒剤の拡販に向けた普及基盤の構築
 - 新剤推進による園芸シェア向上
 - イプフェンカルバゾンの登録国拡大
- 《ファインケミカル事業》
- 高利益(高付加価値)品目の拡大
 - 提案型受託業務の強化
- 《繊維資材事業》
- 家具用途を中心としたアメリカ市場での需要取り込み

- 《農業事業》
- 新除草剤工場の建設着手
- 《ファインケミカル事業》
- 岡山工場ファインケミカル専用化計画の検討
- 《共通》
- 中長期設備投資計画の検討(マスタープラン策定)
 - カーボンニュートラルへの取り組みの方向性の検討

- 《共通》
- 業務効率化(ペーパーレス、脱はんこ等)の推進
 - テレワークの実施

2022年度の主な取り組み

- 《農業事業》
- 水稲除草剤市場における高拡散性粒剤の普及によるシェア向上
 - 園芸シェア向上(新剤の主要産地での推進強化、適用拡大等)
 - イプフェンカルバゾンの登録国拡大と普及推進、東南アジア普及拠点の拡大検討
- 《ファインケミカル事業》
- 高利益(高付加価値)品目の拡大
 - 提案型受託業務の強化(既存顧客との連携強化・新規顧客の開拓)
- 《繊維資材事業》
- 高付加価値製品や環境対応素材の拡大
 - 成長性の高い産業用繊維の強化

- 《農業事業》
- 新除草剤工場の建設・稼働(製造原価低減、内製化促進)
 - 創製研究におけるノウハウの蓄積
- 《ファインケミカル事業》
- 岡山工場ファインケミカル専用化計画の策定
- 《共通》
- 中長期設備投資計画の具現化(マスタープラン更新)
 - カーボンニュートラルへの対応方針策定
 - SDGsへの取り組みの継続・強化

- 《共通》
- 教育研修の充実・強化、海外展開要員の育成
 - 新しい勤務体制の導入

TOPICS

北海道工場・新除草剤工場着工(農業事業)

北海道工場では、「高効率化・省力化・環境対策」をコンセプトとした除草剤の製造拠点となる工場の建設を2021年5月に着工しました。

建築面積は2,965㎡、鉄骨造地上4階建て高さ25mとなり、造粒ライン、包装ライン、製品倉庫などを効率的に配置して、原価の低減を図るとともに高拡散性粒剤「楽粒」などの付加価値の高い製剤を製造し、農家のトータル生産コスト低減をサポートしていきます。

新工場では、資材運搬作業の省力化、原料の自動計量による投入作業の省力化、振動流動乾燥機導入による乾燥の効率化、LED照明や蒸気のドレン回収による省エネ等を実現し、2022年12月に本格稼働を予定しています。



完成予想図

新規除草剤「サキガケ^{らくりゅう}楽粒[®]」発売(農業事業)

2022年3月18日、新しい製剤技術を活用した水稲用一発処理除草剤「サキガケ楽粒」を発売しました。

「サキガケ楽粒」は、当社が開発したノビエに長期残効を示すイプフェンカルバゾンのほか、広葉剤として定評のあるテプリルトリオン、さらに、ノビエ、広葉雑草、一部のカタツリグサ科雑草に高い効果を示すフルルピラウキシフェンベンジル、これら3成分を最適に配合した水稲用一発処理除草剤です。

当社が開発した新しい製剤「楽粒」は、1haの水田でも中に入らずに散布が可能な拡散型製剤で、10aあたり250g処理で、従来の散布方法に加えて、良好な拡散性を活かした畦畔からの散布、水口施用、無人航空機などによる散布に対応することができます。

「サキガケ楽粒」をスタートとして、今後も「楽粒」製剤で農業の省力化に貢献していきます。



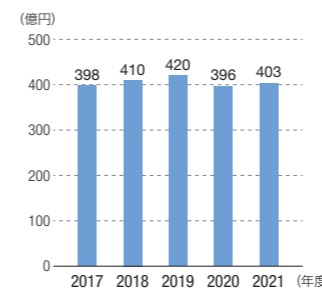
計画と実績

(単位:百万円)

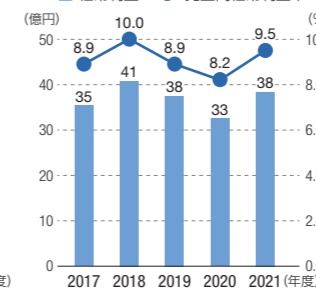
2025年度計画		2021年度		2022年度	
		実績	進捗率*	業績予想	進捗率*
業績目標	売上高	46,500	40,287	41,000	88%
	経常利益	4,400	3,843	3,600	82%
収益構造改革	収益性	売上高経常利益率	9%以上	9.5%	達成
	ROE	8%以上	9.1%	達成	
	財務健全性	自己資本比率	60%以上を維持	65.8%	達成

*進捗率は2025年度計画比

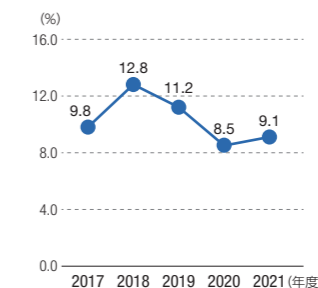
●売上高



●経常利益/売上高経常利益率



●ROE



●自己資本比率

